

令和元年度インターンシップ



県内企業を対象に、平成31年2月から令和元年10月までインターンシップが行われ、4校93名の生徒が実際に職場体験をしました。今回はその中から8人の感想文を紹介します。

山口県立岩国工業高等学校
都市工学科1年 参加生徒 34名

小原 正聖 ㈱エムエスシー

インターンシップ1日目、レベルとトータルステーションを使った測量をしました。授業でのレベルや平板などの実習のときには使えるようになったと思込んでいたが、実際にやってみると何度やってもできず、もっと基礎からしっかりと勉強しようと思いました。

2日目には、大島の山に行きました。斜面に散りばめられた既知点を地図を見ながら探すという作業で、山や畑などたくさん現場に連れて行ってもらいました。現場にはトゲのある木や葉のほか、イノシシの足跡やフンなど野生の動物が生活している様子もあり、周りをよく注意していないと取り返しのつかないことになるような危険なものでいっぱいでした。既知点を探した後は測量をするのでなく安全に作業をして帰ることができるよう危険察知能力も必要なんだなと思いました。3日目は土砂崩れの現場へ。木は倒れ、車の2〜3倍以上の大きさがある岩がそこらじゅうに転がっていました。今回のインターンシップでは、さまざまな現場で貴重な体験をさせてもらい、多くのことを教えてもらいま



森多 舞 井森工業㈱

私は柳井市の井森工業㈱にインターンシップに行きました。行く前は不安でいっぱいでしたが、社員のみなさんが優しく温かく迎えてくださり、緊張もほぐれました。



1日目は荒神大橋に現場見学に行き、橋の工夫やコンクリートの種類にも色々あることを学びました。2日目は午前森ヶ原バイパスの第2トンネルを見学に行きました。前に行ったときに比べ工事がとても進んでいて、トンネル工事の仕組みがよく分かりました。午後は大島大橋に行き、日本で8隻しかない特殊な作業船(サンドコンバクション船)に乗ることができ、とても貴重な体験をさせていただきました。3日目は、インターンシップで学んだことをパワーポイントでまとめ、井森工業の社員さんにプレゼンを聞いていただいたり、座談会で大々さんのお話やアドバイスをいただいたりしました。

3日間、とても充実した日々でした。近くにこんなすごい会社があることを知って嬉しく思います。



初めて測量機という道具を使ってみました。電磁レーダー探査機で、壁や天井を探査し数値を計算しているのを見てすごいなと感じました。午後は、コンサルタントの仕事内容について色々教えてもらいました。構造物を作る場合、材料費や建設費をコンサルタントが計算し、その報告書や設計図書等を事業者の方に納品して、さらに事業者側が工事発注した所が設計図書通りに出来ているかを確認するとの話を聞き、工事をする上での重要な役割だなと思いました。

山口県立山口農業高等学校
環境科学科 参加生徒 23名

平本 隆純 ㈱山口建設コンサルタント

初日は湯田PAの所で高速道路のインターチェンジの工事現場へ行きました。ポツクスと呼ばれるところでは、出来形管理(寸法の検査)や品質管理(鉄筋のかぶりの検査)をやっていて、オートレベルや電磁レーダー探査機という道具を使っていました。電磁レーダー探査機で、壁や天井を探査し数値を計算しているのを見てすごいなと感じました。午後は、コンサルタントの仕事内容について色々教えてもらいました。構造物を作る場合、材料費や建設費をコンサルタントが計算し、その報告書や設計図書等を事業者の方に納品して、さらに事業者側が工事発注した所が設計図書通りに出来ているかを確認するとの話を聞き、工事をする上での重要な役割だなと思いました。

2日目は、「災害と設計・施工に関する事例」について、地震や津波の原因や仕組み、それに対応する工事について教わりました。とても、難しい内容でしたが、1つ1つの災害について対策をとっていると分かりました。午後にはCADについて教わり、実際に使ってみました。最初は、マニュアルを見ながら行い、分からないところが多々ありましたが、質問をしたら優しく答えてくださって理解ができました。



堀田 真己斗 共興建設㈱

実習では初日にトータルステーションの据え付けや距離の測定、道路の計画高の計算を教えてもらいました。トータルステーションは初めて使いましたが、据え付けは高校の実習で習ったセオドライトとほぼ同じだったので、うまくできました。道路の計画高の計算はやり方が全く分からなかったのですが、何度も教えてもらいました。勾配や路肩高など、初めて知る言葉があったので、まだまだ勉強不足だと実感しました。

別の日には雨水調整池設置工事の作業現場の見学と、調整池周辺の測量をしました。水準測量では誤差は0.03m以下が理想と言われましたが、なかなかうまくできませんでしたが、調整池周辺で電子平板測量も行いましたが難しく、誤差を少なくするには測量を行う過程で小さなミスをしなないことが大事だと思いました。他に見学した生コン車の通行道の作業現場では、それぞれの人が役割分担を明確にした上で丁寧に作業をされておりました。私もあんな風に仕事が出来たいと思いました。まだ知らないことが多いので多くの知識を得て、就職したときもその知識を活用していけるように頑張ります。

私は、洋林建設㈱で4日間、インターンシップを体験しました。



まず、社会人になるにあたって、重要なことは何かを教えてくださいました。普段から「礼儀や挨拶」を大切にすることで信頼を得て、建設現場での事故防止に繋がるなど、具体的な効果が分かりました。

山口県立徳山商工高等学校
環境システム科環境土木コース 参加生徒 18名

小山 翼 共同産業㈱

私は4日間、共同産業㈱でインターンシップをさせて頂きました。建設現場での仕事に興味があった私は、先生方のアドバイスや先輩などからの評判を参考に前述の会社を選びました。

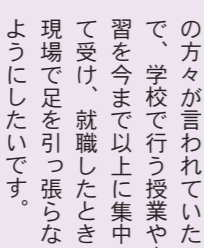
徳山駅前工事の現場では、インターロッキング施工を路盤の部分から施工する作業を見学しました。すごく暑い中、水分補給を欠かさず、ヘルメットを被り、粒度調整探石を敷き詰めていきました。敷き詰める厚みの測量や工事の工程を管理しつつ、次の工程のための準備をする。そして、また敷き詰める作業と、完成する様子を日々見ることが出来たので、とても達成感がありました。



佐伯 結衣 洋林建設㈱

現場での作業は非常に勉強になりました。私たちがよく使う身近な車で、測量を体験しました。測点を自動追尾し、データが許容誤差に納まったときは、感動しました。また、工事の計画や施工の方法、今のような作業をしていて、次に何をしなければならぬのか常に把握しながら監督しなければならぬ。など、現場監督としての仕事についてコツを教えてくださいました。

今回のインターンシップで、普段学校で教わっていることが、社会に出てからも役立つと改めて実感しました。また、「施工管理職になるためには専門知識をもっと身に付けないといけない」「資格も取りたい」など、自分にとって必要なものを気付かせてくれるきっかけとなりました。



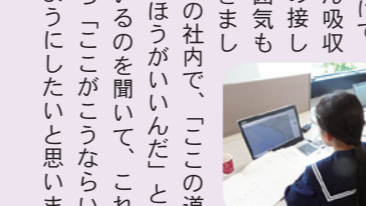
私がお世話になった㈱異設計コンサルタントさんは、土木部と建築部に分かれていて県内外で事業を展開している企業でした。

山口県立田布施農工高等学校
環境土木科 参加生徒 18名

田中 咲帆 ㈱異設計コンサルタント

池の水をろ過していることや、ステジ広場の後方側に3%の傾斜をつけ、後ろの人が見えやすくなる工夫、オートキャンプ場を造るうえで起きた予算的な問題も聞かせていただきました。現場見学を通して、目的に合った事業を、常に問題と向き合いながら、臨機応変に進めていくことが大切だということがわかりました。

2日目は「Sketchup」を用いたイメージパースの作成をしました。初めてやることであまり想像がつかなかったのですが、最終的には道路や緑石を造り上げることができました。



清木 龍太郎 ㈱川畑建設

実習では島田川の工事現場に行き、昨年の西日本豪雨のときの被害と比べてどれくらい復旧工事が進んでいるかを見学しました。現場ではオートレベルで仮の高さを測り、アドバイスをもらった後、無人航空機(UAV)を操作させてもらいました。操縦する物はラジコンヘリを操縦するものに近く、iPadを取り付けて空中からの様子や、UAVの高度まで確認することができるようになっていました。